



2025年11月13日 [2504] 総266号

発行 桂坂学区自治連合会 桑原尚史

ホームページは [桂坂学区自治連合会](#) [検索]

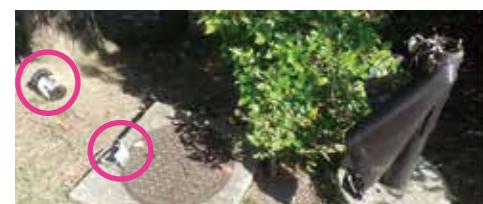
## [要注意]桂坂の公園や学校施設で悪質な器物損壊、相次ぐ！

さつき自治会館の隣、「天蓋の花(北沓掛第二)公園」にある京都市管理の照明灯(足元灯)が全て(5基)破壊され、9月20日、通報を受けた京都市・西京土木みどり事務所は、業者を派遣して現場確認し、その数日後に仮復旧しました。しかし、仮復旧したものが改めて壊され、灯部が飛ばされたり、柱ごと破壊されたりしました。灯部が飛ばされてなくなった柱の頂部にマッチ棒の燃えカスが混ざったものもありました。この照明灯と同じものは、桂坂内の公園・緑道に多数設置されています。

また、10月13日頃、桂坂小学校の体育館の窓ガラスがブロックを投げ入れられて壊されました。理科室でも

窓ガラスが投石によって割られています。同校は、もしもに備えて、10月18日の運動会開催において、西京警察署に依頼して警察官による会場巡回を実施していただきました。同時に大枝中学校では、2週連続で体育館の窓ガラスが投石により割られ、貫通もしています。

上記、いずれも西京警察署に被害届提出済みです。不審者情報がありましたら、110番通報をお願いします。



(天蓋の花公園)  
破壊された照明灯と飛ばされた灯部



(天蓋の花公園)  
照明灯の柱頂部



(桂坂小学校)  
体育館の窓

窓は地面から2m程度の高さにあり、何度もブロックを投げ入れた痕跡が残っています。左側1枚は貫通したブロックが室内に落下。

## 桂坂小学校6年生 戦後80年、心に刻まれる 「桂坂在住の戦争体験者のお話し」

(発行者より桂坂小学校に投稿依頼しました)

今年、戦後80年を特集したさまざまな番組が放送される中、日本テレビの報道番組「ニュースゼロ」1月13日放送回に、桂坂学区在住の尾崎健一氏がご出演になられたというお話を、桑原自治連合会長からお聞きしました。櫻井翔キャスターのインタビュー(★)に答えて発せられる、少年兵としてフィリピンのルソン島に派兵された尾崎氏の壮絶な体験に、わたしたち教職員は言葉を失いました。児童にとっては少々残酷すぎる真実かもしれません。ただ、戦争を知らない世代がどんどん増える中、先の戦争の記憶が風化してしまわぬよう、当時の記憶を語り継いでいただきことは、未来を創りあげる子どもたちにとって極めて重要なことだと思いました。わたしたちは、その思いを尾崎氏にお伝えしました。97歳というご高齢の尾崎氏にご来校いただくことや、大勢の児童の前でご高話をいただくことは、健康面・安全面から考えても実現不可能でしたが、『ほかならぬ桂坂の児童の学習のためなら…』と考えてください、わたくしと学年主任の取材に応えてくださる形で、6年生児童の学習に協力いただくことができました。

少年兵たちは、どこへ赴くのかすら知らされなかったこと。/現地に向かう途中で撃沈され、いのちを失った仲間も大勢いたこと。/到着したフィリピンは、少年兵にも分かるぐらい敗戦濃厚で絶望的な状況であったこと。/戦地における極限状況の中で人間が豹変してしまうこと。/7か月の敗走の中で、飢えや仲間の死、地獄の阿鼻叫喚を体験されたこと。/自決する者の方が、「お母さん」と叫んでいたこと。/317名おられた日本兵のうち、尾崎氏を含め生還されたのはわずかに10名だったこと。

尾崎氏は、生死を分けた紙一重の状況を思い出しながら

力強く語ってくださいました。

尾崎氏のお話に出会った6年生児童は、概念的に「戦争は良くない」と感想をまとめるのではなく、戦争が勇ましくかっこいいものであるかのように語ることの愚かさや、真実を見極め、おかしいと思ったら声を上げることの大切さに気付いていたように思います。ある児童は、<尾崎さんの「戦争は一人では起こせないし、平和は一人では守れない。」という言葉にグッときました。>と学習をふりかえっていました。

本校は、「キラりんく」を合言葉に、自他の人権を尊重する子の育成に取り組んでいます。キラリ、輝こう。りんく、かかわり、つながろう。自分の「居場所」と「出番」を実感し、自他の人権を尊重しながら行動できるようにする…、まさに、戦時教育とは対極の学校づくりだと思っています。ただ、尾崎氏をはじめ、日本は勝つと信じて疑わなかった善良な国民の多くは、家族や兄弟姉妹、恋人など大切な人を守りたい一心で戦争に向かっていたことを思うと、人が人を尊重する気持ちちは、今と変わらず息づいていたとも思います。尾崎氏とお会いして、先人への敬愛の思いが一段と増しました。

(京都市立桂坂小学校 校長 中村 佳明)

\*

戦争では、戦闘で亡くなるイメージが強かったけれど、餓死や衰弱死、負傷がきっかけで命を落すことが多いと知り驚きました。また、重傷者や死亡者をその場に置き去りにすること、置き去りにしなければ自分の命が危なくなるという状況だと知り、戦争は想像をはるかに超える悲惨なものだと思いました。仲間の死を目の当たりにしても放っておかなければ自分が生きていけない…、悲しみや苦しみ、申し訳ないという気持ちを押し切ってその場を去らなければならない…、とてもつらいと思います。尾崎さんのお話から、戦争はわたしの想像以上に悲惨で、当時の日本人々も洗脳されてしまっていた部分があつたと知ったから、「おかしい」と思うことがあつたら声をあげなければならないと思いました。(6年児童のふりかえりより)

\*

尾崎さんは、戦争で大変な経験をしたことを「自業自得だ」なんておっしゃっていたが、ぜんぜんそんなことはないと思います。わたしは、平和への連帯を忘れず、正しく判断する材料、基準を知るために、しっかりと学んでいきたいと思いました。そして、戦争をなくすのは不可能ではないと分かりました。尾崎さんは、「どうか諦めないで

ください。」とおっしゃっていました。わたしには、戦争について学ぶことをやめないでほしい、戦争がどうすればなくなるか考え続けてほしい、戦争をなくすのをムリだと思わないでほしい、というメッセージだと思いました。だから、本当の正義とは何か、確かめる判断力や基準を学び、それを生活に生かしていくことが、大人になることだと感じました。今、わたしたちが平和に生活できている、苦しいことよりも楽しいことの方が多いのは、国のために、未来のために、命をささげてくださった人たちのおかげだと思いました。そのことを忘れず、大人になっていこうと思いました。(6年児童のふりかえりより)

(発行者よりご案内)

★検索サイトで「ニュースゼロ櫻井翔キキコミ2025年1月13日」と入力するとヒットします。

## 桂坂Parkマルシェ2025 「桂坂公園 秋のキッチンカー祭り」開催 11月23日(日) 10時～15時30分

桂坂「古墳の森」秋の特別公開と  
同日開催



[https://drive.google.com/file/d/1aLdwTtwKMqfNstfssHdMCCjEVawQlxmR/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1aLdwTtwKMqfNstfssHdMCCjEVawQlxmR/view?usp=drive_link)

## 桂坂学区民体育祭、交流・親睦が図られる

10月12日(日)、穏やかな秋の日、桂坂体育振興会(会長 石川昌紀さん)の役員が中核となり、各自治会、各自治会体振運営委員、桂坂小学校、同振興会所属の各スポーツクラブ、桂坂消防分団の協力のもと、第32回桂坂学区民体育祭が予定通り開催されました。

総合優勝は「くるみ自治会」、準優勝は「あかしあ自治会」でしたが、順位に関係なく、秋の一日を楽しみ、交流親睦が図られました。



